



神戸天然物化学株式会社

**2021年3月期第2四半期
決算補足説明資料**

証券コード：6568

2020年11月13日



1. 2021年3月期第2四半期決算実績



2021/3期第2四半期決算におけるポイント

1

前年比増収増益を達成。2Qのみでは過去最高を更新。通期想定進捗率も、下期偏重型を考えれば想定範囲内

2

通期業績見通しは据置きの55%経常増益を予想。EBITDAマージンは「屈む」前の水準近くまで回復の見通し

3

生産能力のボトルネック緩和を狙った「屈む選択」は着実に効果が発現。コロナ禍影響は現時点で軽微の想定継続



1-1. 2021/3期2Q累計 経営成績

- 対前年では増収増益を回復。医薬分野は量産ステージ中心に前期の好調が継続。機材分野も開発案件確保で計画通り。一方、バイオ分野は量産ステージ好調も開発ステージ低調により減収
- 通期見通しに対する進捗率は低いものの、下期偏重型を考えればほぼ想定通りのピッチ

経営成績の推移

(百万円)	2019/3期	2020/3期		2021/3期		前年同期比	2021/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計	通期見通し		
売上高	6,290	2,463	6,347	2,590	6,800	+5.1%	38.1%
機能材料分野	2,724	1,090	2,249	1,132	2,230	+3.9%	50.8%
医薬分野	2,355	989	2,846	1,108	3,270	+12.0%	33.9%
バイオ分野	1,210	383	1,250	348	1,300	△9.0%	26.8%
営業利益	1,240	71	574	196	950	+175.0%	20.7%
経常利益	1,285	104	644	228	1,000	+119.2%	22.8%
経常利益率	20.4%	4.2%	10.2%	8.8%	14.7%	+4.6pp	—
当期純利益	936	134	518	167	740	+25.0%	22.7%
EBITDA*	1,995	443	1,377	665	1,934	+50.1%	34.4%
EBITDAマージン*	31.7%	18.0%	21.7%	25.7%	28.4%	+7.7pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



1-2. 四半期別経営成績推移

- 2Q実績は対前年、対1Qともに増収増益。2Qとしては過去最高を更新。コロナ禍の影響は軽微
- 事業領域別にも全方位で堅調に推移。医薬は前年比減収も、これは前年2Qが急拡大した反動
- 2QのEBITDAマージンは28%まで上昇。前期に採った「屈む選択」の効果が着実に発現

	2019/3期				2020/3期				2021/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,405	1,518	1,502	1,864	1,012	1,450	1,567	2,317	1,064	1,525
機能材料	812	694	615	601	537	552	561	597	494	638
医薬	355	552	567	879	226	763	597	1,260	476	631
バイオ	237	271	318	382	249	134	408	459	93	255
営業利益	325	188	268	457	△20	92	260	242	△8	204
経常利益	348	197	265	472	1	102	281	259	12	215
経常利益率	24.8%	13.0%	17.7%	25.4%	0.2%	7.1%	18.0%	11.2%	1.2%	14.1%
当期純利益	255	151	194	334	△3	137	193	191	3	164
EBITDA*	498	371	460	664	164	279	461	472	237	428
EBITDAマージン*	35.5%	24.5%	30.6%	35.7%	16.2%	19.3%	29.5%	20.4%	22.3%	28.1%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

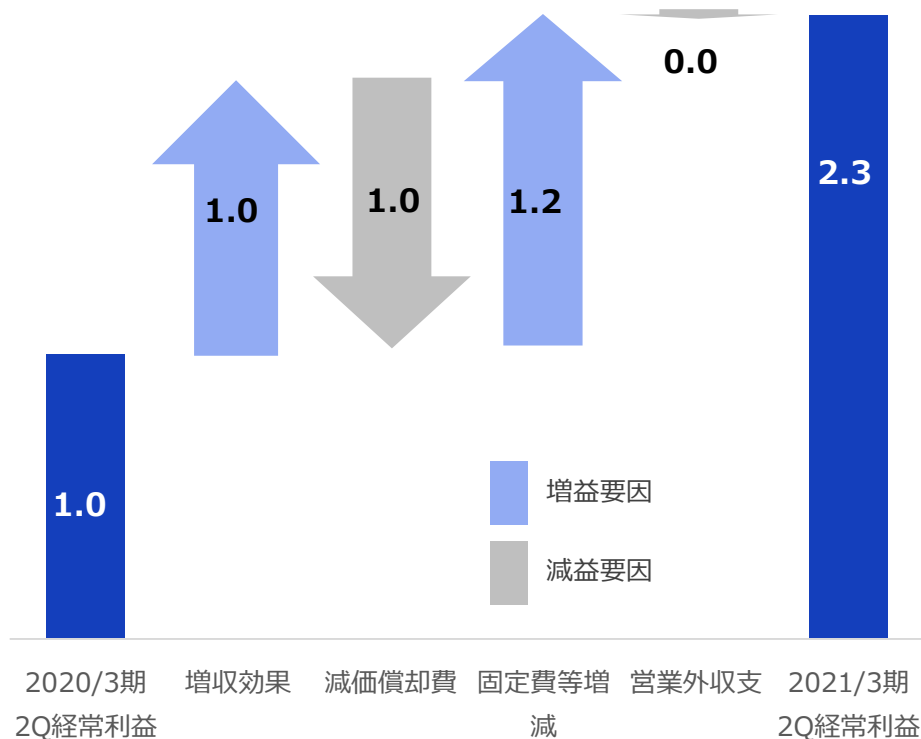


1-3. 2021/3期2Q累計 経常利益増減要因分析

- 前年比大幅増益の主因は増収効果や製造管理費用などのコストダウン。減価償却費の増加を吸収し、経常増益を達成。操業度改善・製造管理費用などは生産余力確保が影響
- 事業分野別には概して開発案件が収益を牽引。高採算案件など製品構成の改善も進展

2021年3月期2Q経常利益の増減要因

(億円)



- 増収効果 +1.0億円
 機能材料分野：開発案件増で製品構成改善
 医薬分野：開発・量産ステージの好調継続
 バイオ分野：研究ステージの採算改善
- 減価償却費の増加 △1.0億円
 減価償却費 4.7億円
 主な設備投資実績 5.9億円
 ・出雲工場原薬精製棟
 ・市川研究所事務所棟
- 固定費等の減少 +1.2億円
 人件費 △0.5億円
 操業度等改善・製造管理費減等 +1.7億円
- 営業外収支の改善 △0.0億円



1-4. 2021/3期2Q末 財政状態

- 売掛金回収や未払金支払が進捗。FCF黒字回復でネットキャッシュは再び積上げへ
- 在庫増の主因は医薬量産案件。受注好調により仕掛品在庫の増加が影響
- 自己資本比率は81.7%。財務安全性に変化なし。資金回収も順調で、資金繰りに懸念なし

財政状態の推移

(百万円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期2Q	前期末差異
流動資産	4,774	4,335	3,894	△440
現預金	3,072	1,476	1,273	△202
棚卸資産	1,097	1,285	1,846	+560
その他	605	1,573	774	△798
固定資産	7,227	8,435	8,185	△249
総資産	12,002	12,770	12,080	△690
負債	2,547	2,943	2,206	△736
有利子負債	978	1,428	1,198	△229
その他	1,569	1,515	1,008	△506
純資産	9,454	9,827	9,873	+46
負債純資産合計	12,002	12,770	12,080	△690

FCF黒字回復により
ネットキャッシュは積上げ

医薬量産案件の在庫増

前期4Qの売上増加で
膨らんだ売掛金回収

設備投資額：5.9億円
減価償却費：4.7億円

FCF黒字回復で
有利子負債を再び圧縮

設備未払金解消

自己資本比率81.7%



1-5. 2021/3期2Q累計 キャッシュ・フローの状況

- 営業CFは売掛金回収などにより大きく改善。設備投資も当面のピークを越えてスローダウンとなったことで投資CFも支出幅縮小。FCFは3半期ぶりに黒字を計上
- FCFの黒字化により、借入金の圧縮に再度着手。手元資金は依然として余裕のある水準を維持

キャッシュフロー推移

(百万円)	2019/3期		2020/3期		2021/3期	前年比較
	上期	下期	上期	下期	上期	
営業CF	211	1,042	△548	590	812	+1,360
税前当期利益	557	738	182	522	227	+44
減価償却費	356	399	372	430	469	+97
その他	△702	△94	△1,103	△362	115	+1,219
投資CF	△1,488	△622	△979	△883	△590	+389
固定資産取得	△1,384	△622	△1,052	△900	△587	+465
その他	△104	0	73	16	△2	△75
FCF	△1,276	420	△1,527	△293	222	+1,750
財務CF	△545	△938	△523	778	△424	+98
借入金増減等	△339	△938	△328	778	△229	+98
配当金の支払額	△192	△0	△192	△0	△193	△0
その他	△13	0	△2	△0	△1	+0
現金、現金同等物の期末残高	3,560	3,042	991	1,476	1,273	282

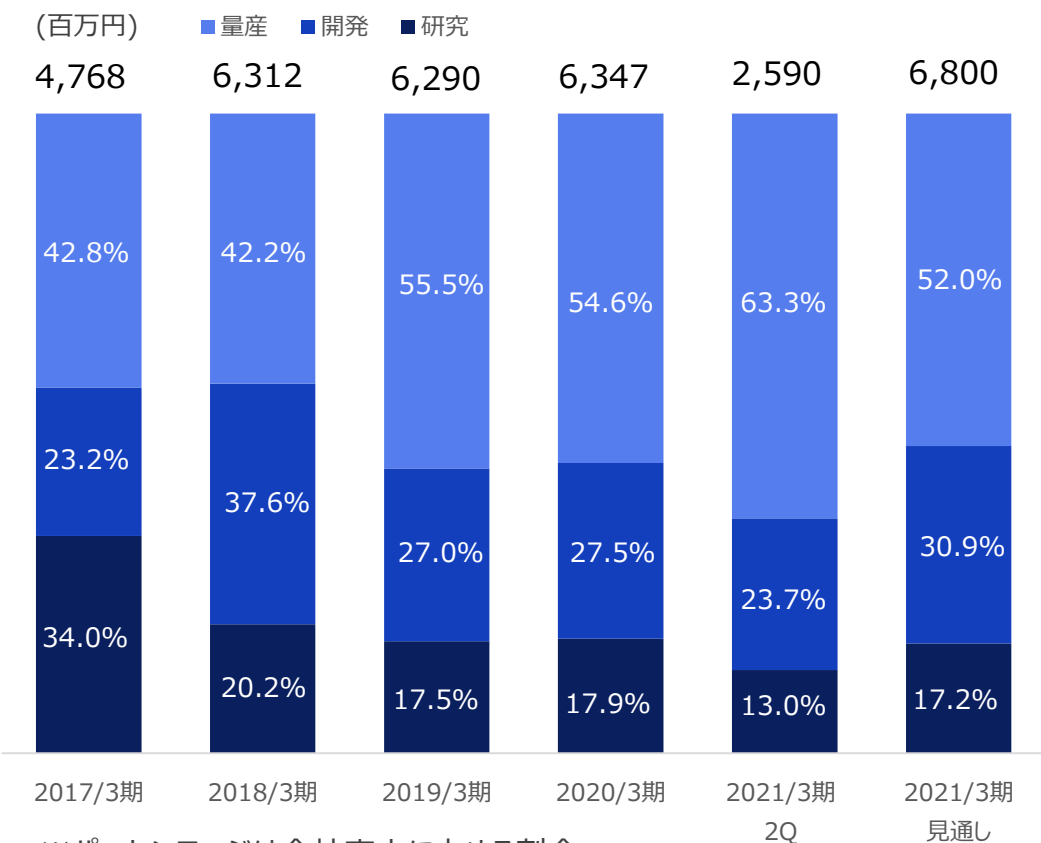
* FCF=営業CF+投資CF で算出



1-6. ステージ別売上高比率

- 2Q累計では量産ステージの売上がさらに拡大。全社売上に占める割合は初めて60%超に到達。
- ただし、2021/3期通期でほぼ前期並みのステージ構成を想定。2Qまでの展開はやや異なるが、売上集中する下期では研究・開発ステージが伸長する見通し

ステージ別売上割合推移



- 機能材料分野
 - 量産ステージ中心の展開に変更ないものの、医農薬中間体の積極的な取り込みにより、開発ステージ案件が増加
- 医薬分野
 - 開発から量産へのステージアップが進展し、量産ステージが稼ぎ頭に台頭。
 - 研究・開発ステージ案件の増加に注力
- バイオ分野
 - 開発ステージ案件が当面の成長ドライバーのため、積極的に取り込む方針

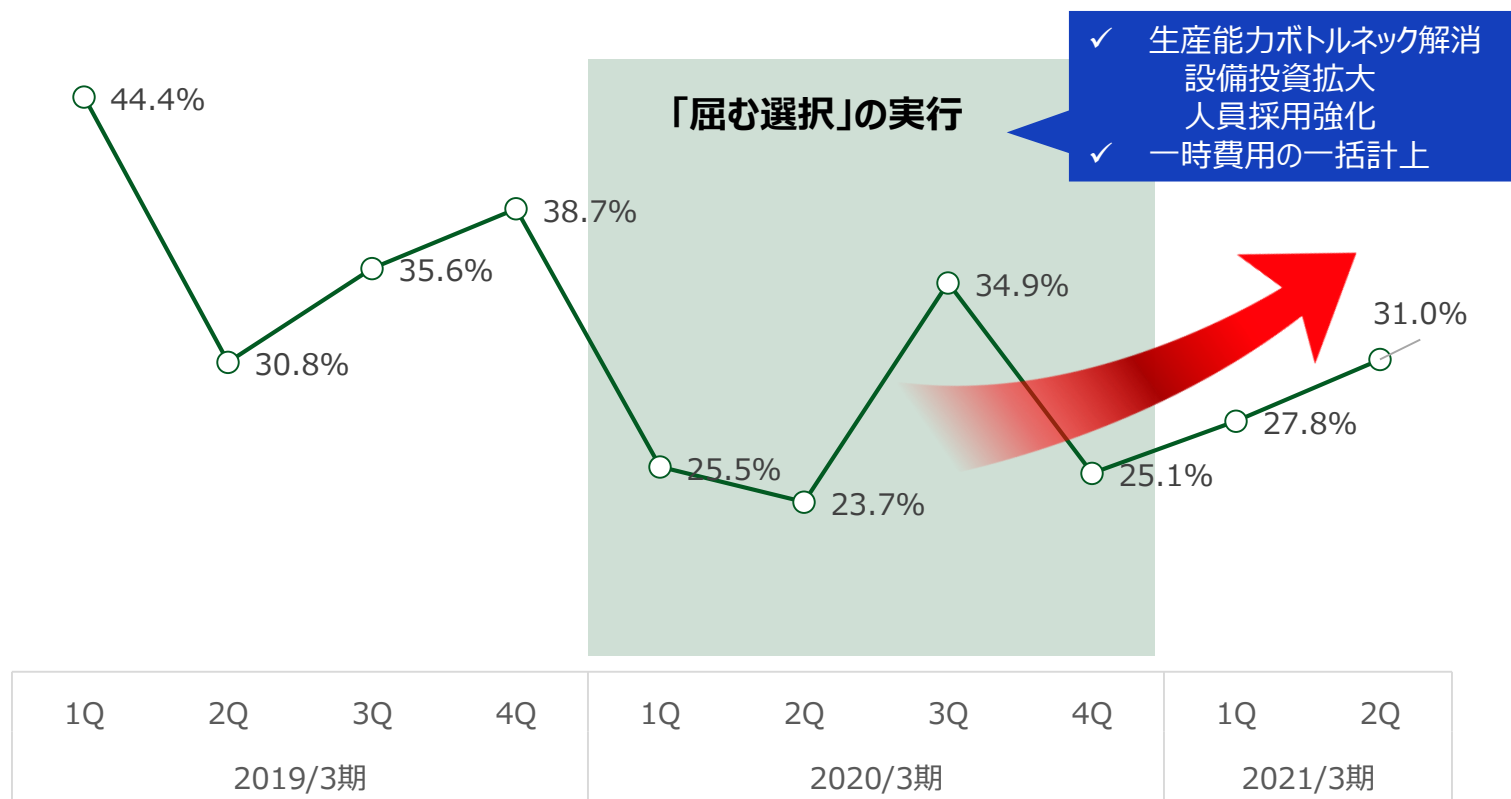
※パーセンテージは全社売上に占める割合



1-7. 「屈む選択」の検証

- 生産能力のボトルネック解消/緩和を目的に、2020/3期に「屈む選択」を決断。投資を急ぎ、効果的な操業ができる体制構築にシフト。後顧の憂いを抑制すべく、一時費用の一括計上も断行
- その結果、ボトルネック発生で急速に悪化していた粗利益率は2021/3期より改善基調に転換。一旦「屈んだ」決断の効果は着実に発現

売上高総利益率の推移





2. 2021年3月期通期見通し



2-1. 2021/3期見通し①

- 従来見通しを継続据置き。前年比では7%増収、55%経常増益を想定
- EBITDAマージンは前期に戦略的に「屈む」前の水準近くまで回復の見通し
- 影響軽微との前提にあるコロナ禍の影響についても、現時点で大きく見通し変更する状況になし。ただし、顧客サイドでの研究開発投資予算削減に波及する懸念は依然否めず

2021年3月期見通し

(百万円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期 見通し	前年比較	
					差異	変化率
売上高	6,312	6,290	6,347	6,800	+452	+7.1%
機能材料分野	2,962	2,724	2,249	2,230	△19	△0.9%
医薬分野	2,881	2,355	2,846	3,270	+423	+14.9%
バイオ分野	468	1,210	1,250	1,300	+49	+3.9%
営業利益	1,222	1,240	574	950	+375	+65.4%
経常利益	1,208	1,285	644	1,000	+355	+55.1%
経常利益率	19.1%	20.4%	10.2%	14.7%	+4.5pp	-
当期純利益	900	936	518	740	+221	+42.7%
EBITDA*	2,004	1,995	1,377	1,934	+556	△40.4%
EBITDAマージン*	31.7%	31.7%	21.7%	28.4%	+6.7pp	-

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



2-2. 2021/3期見通し②

- 下期のみでは対前年8%増収、43%経常増益を想定。生産能力のボトルネック緩和効果が発現
- 対上期では大幅増収増益見通しとなるが、これは主として売上が下期偏重型であるため。今下期は新規原薬精製棟の寄与も加わり、上/下差は例年よりもやや大きくなる公算大
- 下期想定EBITDAマージンは30%を回復。しかし、一昨年水準にはまだ至らず、改善余地残す

2021年3月期見通し（半期別）

(百万円)	2019/3期 下期	2020/3期		2021/3期		下期見通し	
		上期	下期	上期	下期見通し	対前年差異	対上期差異
売上高	3,366	2,463	3,884	2,590	4,209	+325	+1,619
機能材料分野	1,217	1,090	1,159	1,132	1,097	△62	△34
医薬分野	1,447	989	1,857	1,108	2,161	+303	+1,052
バイオ分野	701	383	867	348	951	+83	+602
営業利益	726	71	503	196	753	+250	+556
経常利益	738	104	540	228	771	+231	+543
経常利益率	21.9%	4.2%	13.9%	8.8%	18.3%	+4.4pp	+9.5pp
当期純利益	529	134	384	167	572	+187	+404
EBITDA*	1,125	443	933	665	1,268	+334	+602
EBITDAマージン*	33.4%	18.0%	24.0%	25.7%	30.1%	+6.1pp	+4.4pp

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



上期に発現した影響

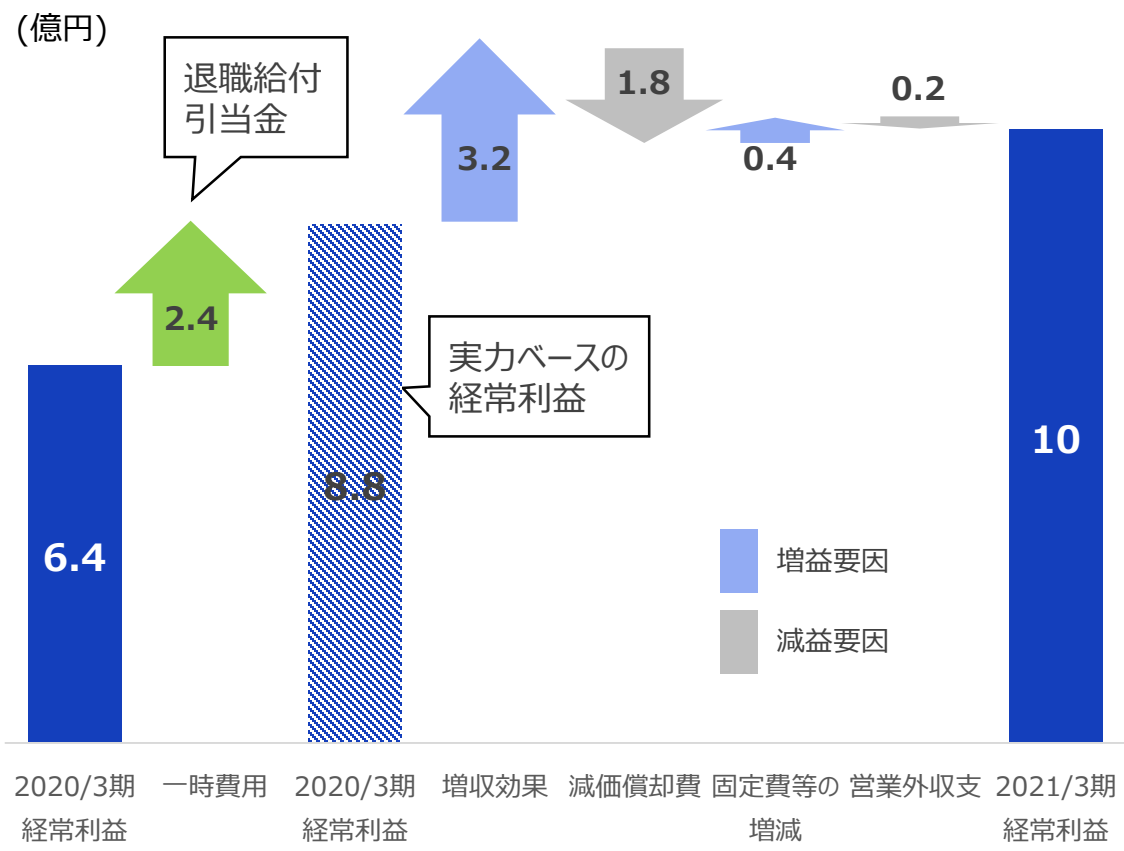
- **コロナ禍は当社業績に大きな影響なし**
ただし、顧客サイドでの研究中断やサンプル評価の遅れなどが発生
物流の停滞から海外原材料の調達にも遅延が発生
- **新型コロナウイルス感染症薬の研究開発に対し支援を実施**

下期の影響見通し

- **現行計画では特に大きな影響の発現は織り込まず**
ただし、種々の計画で遅延の可能性は依然残っており、楽観的な見方を
採る状況には未だ至っていない状況
- **期待のあったコロナ対策などに端を発した医薬・バイオ開発案件も現時点で未だ盛り上がりならず。コロナ対策関連需要は大きな影響は想定せず**

- 増減益分析想定も、従来見通しを継続。業容拡大による償却増・人員増はあるものの、前期計上の一時費用の消失、設備投資効果の発現、製造管理費用の効率化などが収益を牽引
- 分野別には、医薬分野が好調維持の見通し。

2021年3月期 経常利益の増減要因（見通し）



- 増収効果 +3.2億円
機能材料分野：機能材料製品は減少するも、新規量産製品でカバー
医薬分野：需要を取り込み開発・量産品の売上を想定
バイオ分野：好調維持も、伸びは一旦減速
- 減価償却費の増加 △1.8億円
原薬精製設備取得により増加
- 固定費等の増加 +0.4億円
人員増はあるも、本社移転費用等の消失が寄与
- 営業外収支 △0.2億円



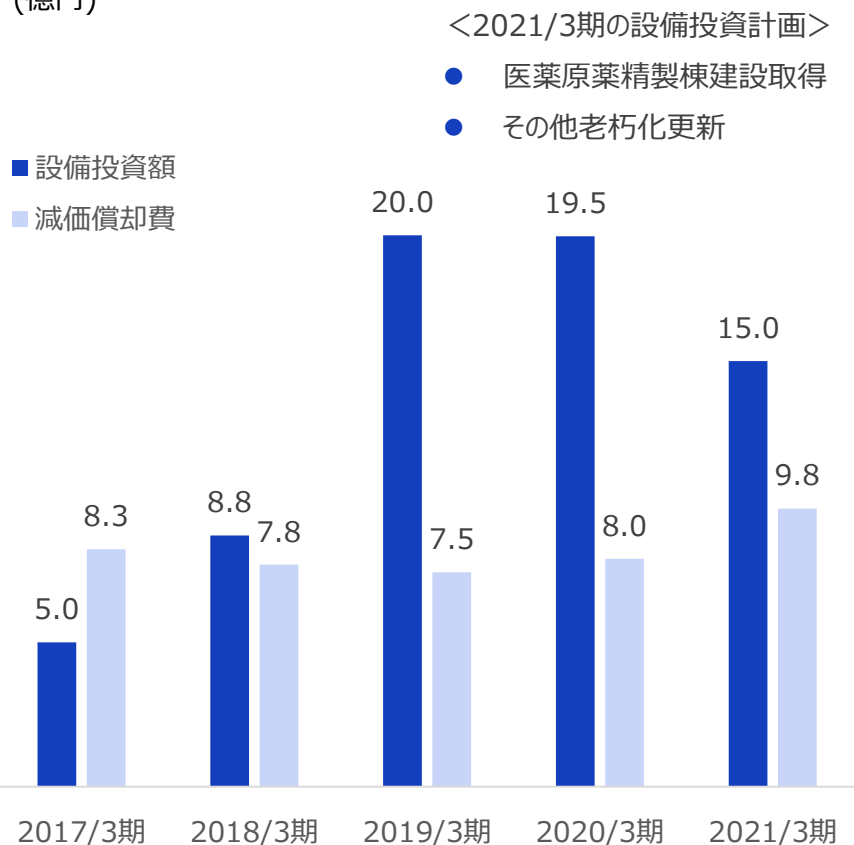
2-5. 設備投資・研究開発動向

- 設備投資・R&Dの2021/3期計画に変更なし。設備投資は老朽化投資を中心に15億円、R&Dは量産候補案件のプロセス開発を中心に2.4億円を計画
- 減価償却費は1.8億円増加の見通し。原薬精製棟や新本社の検収進行が影響

設備投資と減価償却費の推移

研究開発費の推移

(億円)



<中分子医薬>

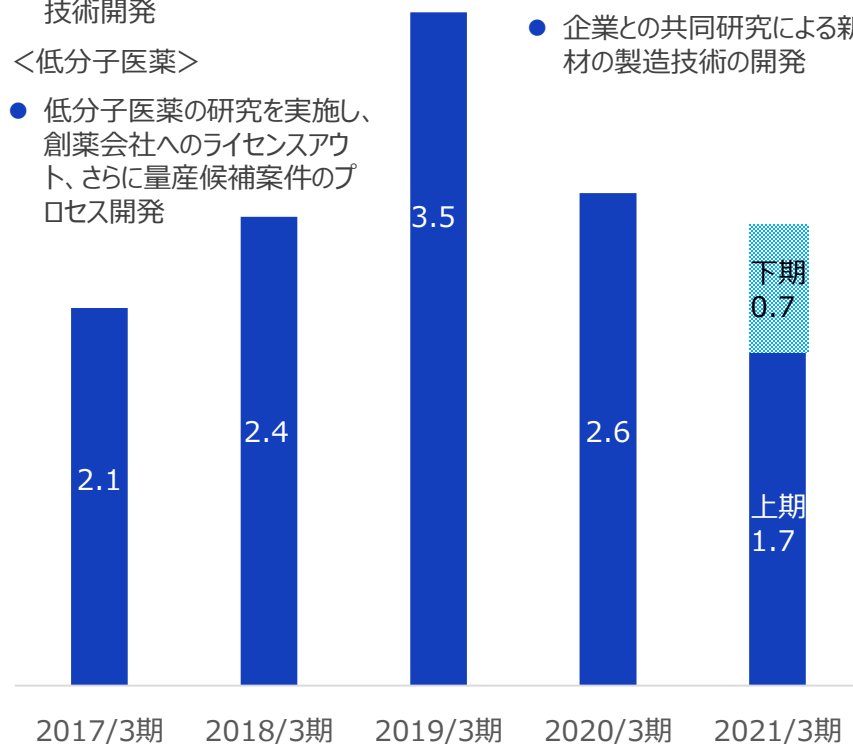
- 次世代産業である中分子医薬(糖鎖、ペプチド、核酸)の技術開発

<低分子医薬>

- 低分子医薬の研究を実施し、創薬会社へのライセンスアウト、さらに量産候補案件のプロセス開発

<バイオ分野、機能材料分野>

- バイオを利用した製造技術の開発
- 企業との共同研究による新素材の製造技術の開発

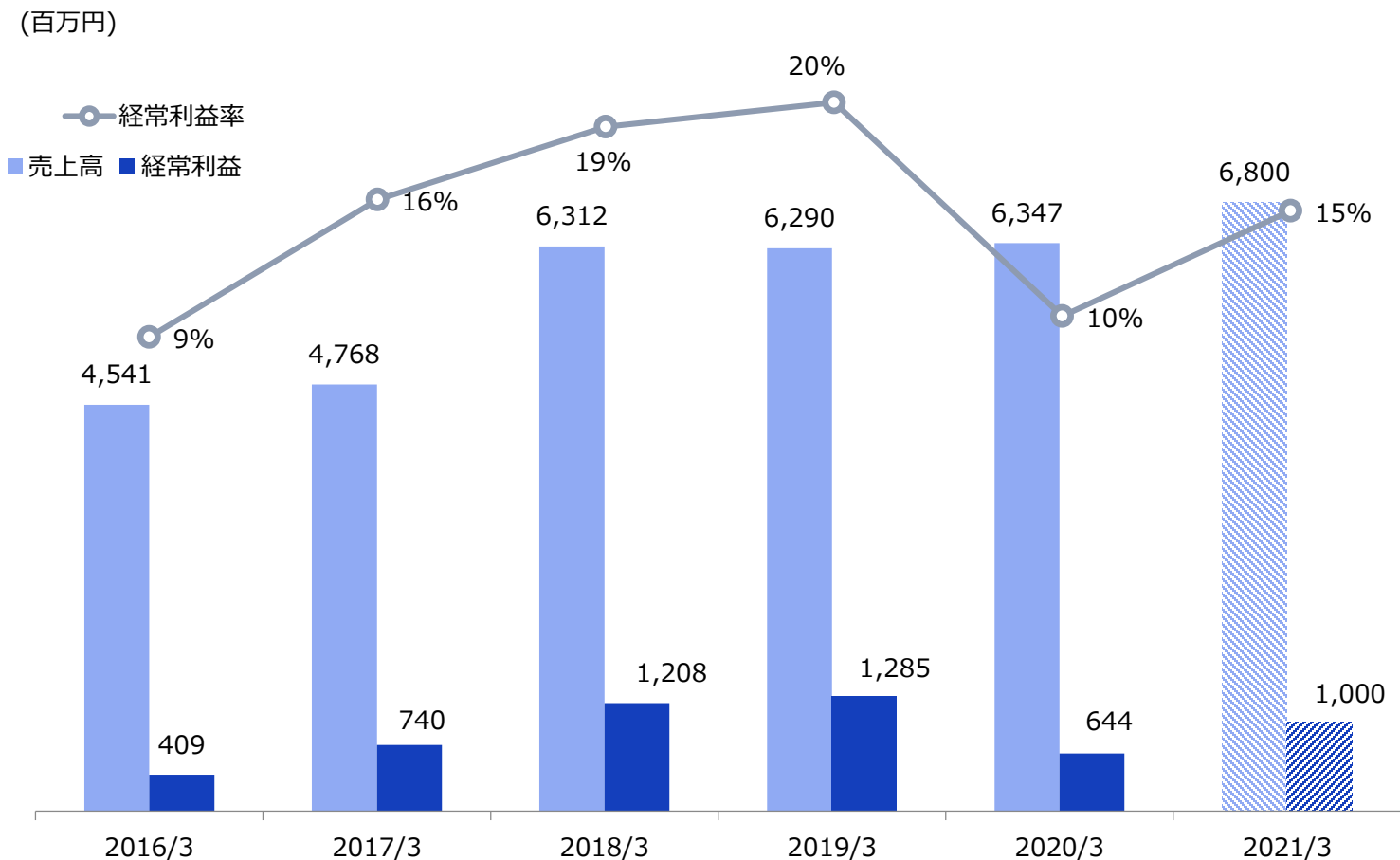




2-6. 中期見通し

- 現行中計は当期が最終年度。「屈む選択」効果の発現により、目標達成に向けて注力
- 2022/3期からの新中計では一段の成長速度加速を目論む。カギは開発・量産案件の獲得
- さらに、医薬原薬ではR&Dが、エレクトロニクス材料では新素材開発などが重要に

長期業績トレンド



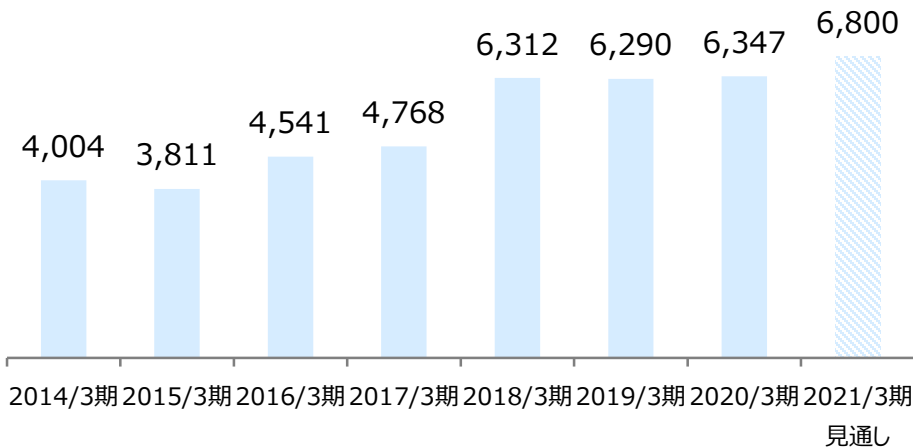


3. Appendix



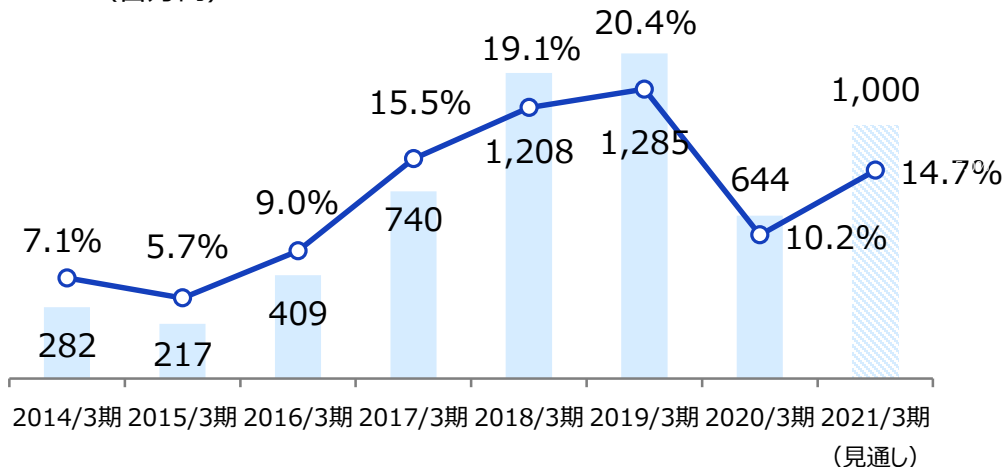
売上高

(百万円)



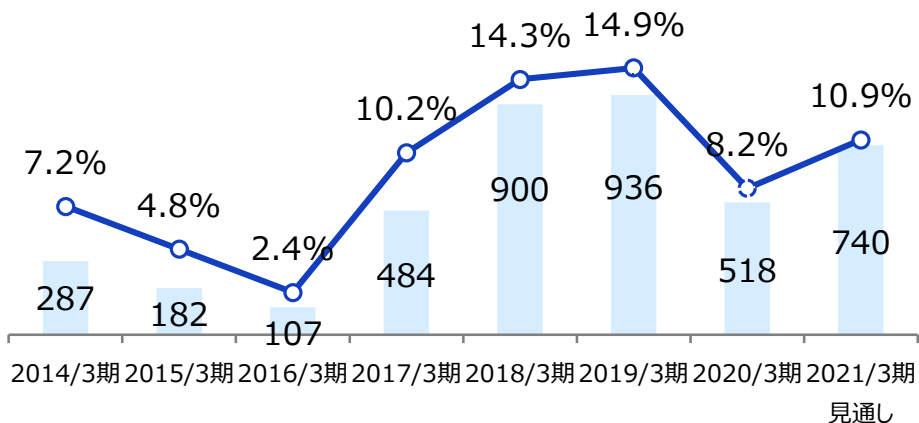
経常利益・経常利益率

(百万円)



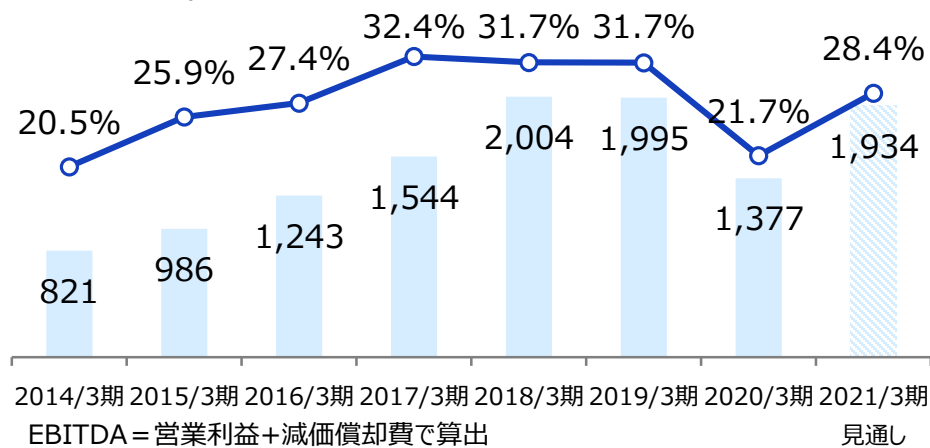
当期純利益・当期純利益率

(百万円)



EBITDA・EBITDAマージン

(百万円)



2016年3月期は連結財務諸表を作成していますが、比較可能性の観点から上記は全て単体の数値を記載

項目 (単体)	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
売上高 (百万円)	3,811	4,541	4,768	6,312	6,290	6,347
経常利益 (百万円)	217	409	740	1,208	1,285	644
当期純利益 (百万円)	182	107	484	900	936	518
EBITDA* (百万円)	986	1,243	1,544	2,004	1,995	1,377
売上高経常利益率	5.7%	9.0%	15.5%	19.1%	20.4%	10.2%
売上高当期純利益率	4.8%	2.4%	10.2%	14.3%	14.9%	8.2%
EBITDAマージン*	25.9%	27.4%	32.4%	31.7%	31.7%	21.7%
現金及び預金 (百万円)	772	835	1,262	5,413	3,072	1,476
借入金・社債 (百万円)	3,978	4,051	3,236	2,256	978	1,428
純資産額 (百万円)	3,663	3,783	4,183	8,736	9,454	9,827
総資産額 (百万円)	8,514	8,681	8,838	12,688	12,002	12,770
自己資本比率	43.0%	43.6%	47.3%	68.9%	78.8%	77.0%
配当性向	11.0%	55.8%	18.6%	21.4%	20.6%	37.3%
役員・従業員数	212人	216人	237人	254人	270人	285人

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



当社が中心となる研究開発事例（抜粋）

分野	現時点の成果	研究テーマ	期間	主な共同研究先	競争的資金/事業母体
中分子 医薬	特許出願	正常型CD44mRNAの発現を増加させる核酸医薬の創製	2013年度～ 2014年度	神戸学院大学	兵庫県COE
	特許出願	前頭側頭型認知症治療薬の開発	2016年度～ 2020年度	名古屋大学 大阪大学	AMED
	特許出願	オリゴ核酸合成技術の開発	2016年度～	—	—
低分子 医薬	特許出願 ジェイファーマ(株) ライセンス契約	LAT-1選択的阻害活性を有する化合物の創製	2011年度～	大阪大学	医薬基盤研 AMED
	特許出願	アルギニン-バソプレシン1b受容体拮抗作用を有する化合物の創製	2012年度～ 2013年度	京都大学 大学発ベンチャー	—
	特許出願	メモリー型T細胞活性化材の開発	2014年度～	大阪大学	—
バイオ	ノウハウの蓄積	革新的バイオマテリアル実現のための高機能化ゲノムデザイン技術開発	2012年度～ 2016年度	神戸大学 等	経済産業省
	ノウハウの蓄積	糖鎖利用による革新的創薬技術開発	2016年度～ 2020年度	産総研 等	AMED
	ノウハウの蓄積	植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発（助成事業/委託事業）	2016年度～ 2020年度	キリン(株) (株)竹中工務店 味の素(株) 等	NEDO
その他	ノウハウの蓄積	テロメアDNA検出を指向した電気化学活性プローブ化合物の開発	2015年度～ 2017年度	九州工業大学 等	島根県



- 1985年 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 ● 岩岡工場開設
- 1993年 ● 市川研究所開設
- 1997年 ● 明石市に本社移転
- 2001年 ● 出雲第一工場開設
- 2002年 ● 現在地に本社移転 神戸研究所開設
- 2003年 ● 大地化成株式会社を買収（2010年売却）
中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化 2016年売却）
神戸工場開設
- 2005年 ● KNCバイオリサーチセンター開設
- 2007年 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 ● 出雲第二工場開設
- 2013年 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
- 2014年 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 ● 東証マザーズ上場
- 2020年 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-955-9900 (代表)
knc-ir@kncweb.co.jp